

核戦争防止

兵庫医師の声

第110号 2022年9月号

発行 核戦争を防止する
兵庫県医師の会

〒650-0024
神戸市中央区海岸通 1-2-31
神戸フコク生命海岸通ビル
5F 兵庫県保険医協会内

電話 078 (393) 1807
振替 01130-6-57830

核戦争を防止する兵庫県医師の会が総会

非核「神戸方式」を世界に広げよう



内部被ばくが軽視されてきたと話す郷地先生
(上)、非核「神戸方式」について話す梶本氏



核戦争を防止する兵庫県医師の会は7月24日、協会会議室でオンラインを併用し第41回総会を開催。2022年度活動報告と新年度の活動方針を確認し、郷地秀夫先生を代表に再任した。記念講演は、原水爆禁止兵庫県協議会・事務局長の梶本修史氏が「非核神戸方式を世界に広めよう」、郷地先生が「被爆による人体への影響」をテーマにそれぞれ講演した。記念講演には現地で12人、オンラインで20人が参加した。

梶本氏は艦船が神戸港に寄港するときに核兵器を搭載していないことを証明する非核証明書の提出を義務付ける、非核「神戸方式」について解説。戦争中は空襲の被害に遭い、終戦後も占領下で神戸港が米軍の基地となり、米軍と住民とのトラブルが尽きなかったことなどを経て、神戸市民の長い時間をかけた平和を求める運動

でこの非核「神戸方式」が勝ち取られたものであると強調した。また、核兵器禁止条約が自国に核兵器を配置することを禁止していることについて、非核「神戸方式」が国際条約になったものだと話し、日本政府をこの核兵器禁止条約に参加させることは国民・神戸市民の国際的責務であると訴えた。

郷地先生は広島・長崎の原爆でも、福島第一原発事故でも、被ばくの影響として内部被ばくが軽視され続けてきたとし、同じ被ばく量でも外部被ばくより身体に与えるダメージが大きいとする研究結果を解説した。また福島原発労働者でも体内に放射性物質が残っていることが確認されていることが確認されているとする、放射線医学総合研究所の研究結果も解説した。

原水爆禁止世界大会 2022 in 広島 参加記

核兵器禁止条約 日本政府も参加を

東灘区 川西 敏雄 先生

原水爆禁止 2022 年世界大会が、8月4日から9日に広島市内・長崎市内で開催された。4日から6日の広島会場には、武村義人先生、川西敏雄先生、坂口智計先生が参加し、武村先生、広川恵一先生からの折り鶴を「原爆の子の像」に供えた。

3年ぶりの現地開催となった会場では1600人が参加し、全国1828会場でオンライン視聴された。参加した川西先生の参加記を紹介する。

8月6日から3日間、原水爆禁止世界大会 in 広島に参加した。開会総会では被爆者の児玉三智子さんも発言。唯一の戦争被爆国である日本の政府だからこそ、核兵器禁止条約に参加し、核兵器廃絶の先頭に立つことが求められていると話した。当日はNPT（核不拡散条約）再検討会議が開かれている最中で、日本国の首相として初めて参加した岸田首相に対し、2000年NPT再検討会議最終文書に盛り込まれた、核兵器保有国が核兵器の完全廃棄をすることを明確な約束を履行することを主体的に呼びかけることを求めた。

ロシアとウクライナが戦時下にあるが、両国から平和活動家が参加していた。ウクライナのキーウからオンラインで参加したユーリイ・シェリアゼンコ氏は、軍縮条約によって核兵器は廃絶できると訴えた。「無力な政治指導者たちの共犯のもと人権が踏みにじられている、戦争マシーンを止めなければならない」という発言はとても力強く感じた。

ロシアからオンラインで参加したオレグ・ボドロフ氏は、ウクライナで起きているのはロシアとNATOの対立であり、ウクライナはその犠牲

者だと発言。ロシア軍が原子力発電所を攻撃し占拠したことについて「新しい型の核兵器の使用」と表現し、原子力の平和利用と軍事利用に境界はないと訴えた。

2日目の分科会でも、ロシアとウクライナの両国の平和活動家が発言する分科会があり、参加した。ここではあわせて5人の活動家が登壇したが、

5人の発言から分かったことは、ロシア・ウクライナ両国とも自国の利益のために人権侵害を行っているということだ。そのなかで、抵抗の活動を続ける人たちがおり、ウクライナだけでなく世界のあらゆる戦争の停止、市民の連帯が重要だということが分かった。

3日目である8月6日、広島市主催の平和記念式典での岸田首相の挨拶は、核兵器禁止条約に一言も触れておらず、ヒバクシャの方々の願いを聞いたあとだととても残念に思えた。対称的に、松井一実広島市長は挨拶で日本政府に核兵器禁止条約への参加を求めたほか、締約国となるよう強く求めていた。

(次のページに続く)



(左から) 坂口先生、武村先生、川西先生が折り鶴を捧げた

○反核医師の声 (3) ○

(前のページより)

平和記念式典のあと開かれた閉会総会では、「核抑止力」なるものは核の威嚇のもとに他国を侵略し支配するための手段であるとし、「核なき世界」のため、日本政府に対し核兵器禁止条

約への支持、参加を求めた「広島宣言」採択した。

ヒバクシャの平均年齢は 84 歳を超えた。なんとしても、彼らが生きている間に核廃絶の願いを実現したい。

2022 年原水爆禁止国民平和行進

核兵器廃絶の世論をさらに大きく

明石市・榎林歯科 事務 藪内 啓志 さん

新型コロナウイルス感染症のため中止になっていた平和行進が 3 年ぶりに行われました。いつもは舞子から東二見までの平和行進が、新型コロナの感染拡大のため舞子から松江海岸公園までに変更されました。全体で約 80 人の参加者でした。榎林歯科では榎林義雄院長をはじめ 13 人が参加し、舞子から松江海岸公園まで歩きました。行進中は、大きな声を出すことや、周囲の人たちに話しかけることができず、スピーカーからのみ訴えを行いました。

この 3 年間で、核兵器禁止条約が発効し、今年第一回締約国会議が開かれ、核兵器廃絶の動きが大きく前進しました。しかし残念ながら日本はオブザーバー参加さえしませんでした。唯一の戦争被爆国・日本として核兵器禁止条約を真っ先に批准し、先頭に立って核保有国へ核兵器廃絶のはたらきかけをすべきですが、アメリカの「核の傘」にしばられ、いまだに批准し



榎林歯科院長の榎林先生が明石市役所前で核兵器廃絶を訴えた

ていません。

核兵器廃絶の世論を大きく盛り上げて、核兵器を地球上からなくすためにみなさんががんばりましょう。

非核の政府を求める兵庫の会 学習会のご案内

「知ればおもしろいジェンダー」

講師 あかた ちかこ さん (思春期アドバイザー、京都精華大学講師)

ZOOM 申込はこちら

日時 10月8日(土) 14時~16時

会場 兵庫県保険医協会会議室 (ZOOM 併用)

参加費 1000円

お問い合わせは idichi@doc-net.or.jp / 078-393-1833



九条の会兵庫県医師の会

市民講演会「沖縄から見た憲法の危機」

日米地位協定で主権取り戻そう



米軍基地による環境汚染が県民の健康を脅かしていると語った前泊教授

九条の会・兵庫県医師の会は7月16日、協会会議室とオンラで市民講演会を開催。沖縄国際大学の前泊博盛教授が『『復帰50年』沖縄から見た憲法の危機と安保・地位協定』をテーマに講演し、46人（来場16人、ZOOM30人）が参加した。

前泊先生は、現在沖縄が置かれている状況について、米軍基地からの、人体や環境に有害な影響がある有機フッ素化合物（PFOS）の流出が問題になっているにもかかわらず、国や県の立

ち入り調査をアメリカ側が拒むなど、県民の健康を脅かしている実態があると紹介。環境補足協定により日本側は立ち入り調査を「申請することができる」とされているが、アメリカ側に受け入れ義務は課されていないという不平等な協定が根底にあると指摘した。

また、日米地位協定により、米軍による事件や事故の現場に日本の捜査機関は立ち入ることができないが、日本と同様に米軍基地があるドイツ、イタリア、ベルギー、イギリスでは、米軍による事故の際は自国の警察が捜索可能なほか、訓練・演習も自国の承認が必要であることから、世界的に見ても日米関係は「犯罪捜査を犯人にさせる」ような異常な状況であるとした。

最後に、現在の日本は、憲法の上に日米同盟を置く「対米追従の似非法治国家」の状態であり、「自国領域内は自国法で統治する」という主権国として当然の権利を回復するためには、不平等な日米地位協定の改定が必要だと説明。改定を阻む要因として国民やメディアの無関心、政治家や官僚の能力不足などを指摘し、日米関係の現状と地位協定改定の必要性を国民に知らせるとともに、憲法を守る立場でアメリカと対峙できる政治家を選ぼうと訴えた。

核戦争を防止する兵庫県医師の会

2022年度会費 ご入金のお願ひ

いつも反核医師の会にご協力を賜りありがとうございます。全国反核医師のつどいやさまざまな企画開催等、反核医師の会の活動は、皆さまの会費で成り立っています。

同封の振り込み用紙にて新年度会費（年額5000円）のお振り込みをお願いします。募金にもぜひご協力ください。

